

問1 戦国大名の朝倉氏が定めた法には、家臣が各自の領地で勝手に城を構えることを禁じ、大名の本拠地に住まわせる方針が示されています。このように、大名が家臣を自らの膝元に集住させた目的として、当時の社会背景を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2023年 広島県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------------------------------|---|---|---|
| 1. 海外から伝来した鉄砲やキリスト教が、地方の家臣に広まるのを防ぐため | 2. 家臣を農村に定住させることで、戦時以外は農業に専念させて食料生産を増やすため | 3. 家臣と土地の結びつきを弱めて反乱を防ぎ、軍事・政治的な統制を強化するため | 4. 家臣を各地の拠点に分散して配置することで、領土の境界線の防衛を固めるため |
|--------------------------------------|---|---|---|

問2 戦国大名が「分国法」を制定した目的や、その社会的な背景を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2016年 福岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 裁判の迅速化を図るため、過去の判例を整理して評定衆の裁決の基準を明確にするため。 | 2. 幕府の法に基づく全国統一的な裁判基準を確立し、朝廷の権威を回復させるため。 | 3. 徳川將軍家への忠誠を誓わせ、大名による勝手な婚姻や城の補修を制限して謀反を防ぐため。 | 4. 下剋上の世において、家臣同士の私的な争いを禁じ、領国内の秩序を安定させて支配力を強めるため。 |
|---|--|---|---|

問3 室町幕府が最終的に滅亡を迎えた過程について、1573年に行われた出来事として正しい説明はどれですか。 (2018年 静岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--|
| 1. 織田信長が、比叡山延暦寺を焼き討ちして宗教勢力の軍事力を排除した | 2. 織田信長が、対立を深めていた15代將軍の足利義昭を京都から追放した | 3. 織田信長が、鉄砲を組織的に用いて長篠の戦いで武田勝頼の軍勢を破った | 4. 織田信長が、布教活動を行っていたフランシスコ・ザビエルにキリスト教の保護を約束した |
|-------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--|

問4 戦国大名の朝倉氏が定めた分国法（領国内の法律）の中には、家臣は自分の領地に城を構えることを禁止し、大名の本拠地である一乗谷に集まって住むべきことや、各地の統治には代わりの役人を配置することなどが記されています。このように、戦国大名が家臣を強制的に呼び寄せ、あわせて商工業者を集めることで経済の活性化を図った、領国の政治・経済・文化の中心地を何と呼びますか。 (2023年 広島県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------|--------|-------|--------|
| 1. 宿場町 | 2. 門前町 | 3. 港町 | 4. 城下町 |
|--------|--------|-------|--------|

問5 戦国時代の甲斐国（現在の山梨県）を治めた武田氏が定めた「甲州法度之次第」のように、各地の戦国大名が領国支配のために定めた法について、その特徴を説明したものとして適切なものはどれか。 (2021年 京都府公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 朝廷が定めた律令制度を復活させ、中央集権的な国家体制を再構築することを目指した。 | 2. 鎌倉幕府が定めた御成敗式目をもそのまま引用し、全国一律の公平な裁判を保証した。 | 3. 家臣同士の私的な争いを禁じる喧嘩両成敗などの規定を設け、大名による裁判権を強化した。 | 4. 全国の公家を統制し、儀式や行事のあり方を細かく規定することで天皇の権限を制限した。 |
|---|--|---|--|

問6 日本に鉄砲が伝来した16世紀半ばの世界情勢について説明した文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2019年 大分県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|-------------------------------------|------------------------------------|---|
| 1. チンギス・ハンがモンゴル帝国を建国し、ユーラシア大陸の広範囲を支配していた。 | 2. ムハンマドがイスラム教を創始し、アラビア半島の統一を進めていた。 | 3. アメリカでリンカーンが大統領に就任し、南北戦争が勃発していた。 | 4. ドイツのルターが、ローマ教皇や教会の権威を否定し宗教改革を開始していた。 |
|---|-------------------------------------|------------------------------------|---|

問7 戦国時代、九州の種子島に伝来した武器をきっかけとして始まった南蛮貿易について、当時の状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2016年 長野県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---------------------------------------|--|------------------------------------|
| 1. 銀や銅を輸出する代わりに、欧米から蒸気機関などの近代技術が導入された。 | 2. 幕府の許可を得た朱印船により、東南アジア諸国との間で盛んに行われた。 | 3. キリスト教の布教は厳しく制限され、貿易の窓口は長崎の出島に限定された。 | 4. キリスト教の布教を伴い、鉄砲や火薬などの軍事物資が輸入された。 |
|--|---------------------------------------|--|------------------------------------|

問8 15世紀末、ポルトガルの航海者がアフリカ大陸南端の喜望峰を回ってインドに到達したことで、ヨーロッパからアジアへの直接的な海上ルートが確立されました。この人物が切り開いた「インド航路」について述べたものとして、最も適切なものを答えなさい。 (2017年 高知県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| 1. フェルディナンド・マゼランが、世界一周航海の一環として立ち寄った。 | 2. クリストファー・コロンブスが、西回りでアジアを目指す途中に到達した。 | 3. マルコ・ポーロが、陸路でアジアを訪れた帰路に発見した。 | 4. バスコ・ダ・ガマが、香辛料などの交易を目的として到達した。 |
|--------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|

問9 戦国時代、現在の島根県に位置する石見銀山は日本最大級の銀山として知られていました。この銀山の支配権をめぐる、中国地方を舞台に激しい抗争を繰り広げた戦国大名の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2026年 島根県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1. 島津氏と大友氏 | 2. 武田氏と上杉氏 | 3. 尼子氏と毛利氏 | 4. 織田氏と今川氏 |
|------------|------------|------------|------------|

問10 室町時代後半から戦国時代にかけて、実力のある者が身分の高い者に打ち勝って勢力を広げていく社会風潮が見られました。このような風潮を何と呼びますか。 (2022年 熊本県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------|--------|--------|--------|
| 1. 寄合 | 2. 惣領制 | 3. 徳政令 | 4. 下剋上 |
|-------|--------|--------|--------|

問11 戦国大名が制定した「分国法」の内容や目的について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 山口県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------------------------------|---|--|--|
| 1. 明治政府が近代的な国家を樹立するために、国民の権利と義務を定めた。 | 2. 領国を独自に統治するため、家臣同士の喧嘩を両者とも処罰する規定などを盛り込んだ。 | 3. 鎌倉幕府が御家人同士の土地争いを公平に裁判するために、源頼朝以来の先例をまとめた。 | 4. 江戸幕府が全国の大名を統制するために、城の修理を制限することなどを目的とした。 |
|--------------------------------------|---|--|--|

問12 16世紀後半に甲斐や信濃の一部で使われていた、度量衡に関する独自の基準である「甲州ます」の説明として、最も適切な記述を選びなさい。 (2020年 愛知県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 南蛮貿易を通じてキリスト教の宣教師たちが持ち込んだ、西洋式の積単位に基づいた枡である | 2. 江戸幕府が貨幣制度の安定を目指して制定した、全国で唯一使用が認められた公認の計量器である | 3. 將軍の足利義昭が京都の商人に命じて作らせ、全国有力大名に配布した標準的な枡である | 4. 中央の京で使われていた標準的な枡とは容量が異なり、地域独自の経済基準として運用されていた |
|---|---|---|---|

問13 16世紀半ば、イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルが日本を訪れ、キリスト教を伝えた当時の世界情勢に関する説明として最も適切なものはどれか。 (2020年 埼玉県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. ルネサンスによる科学の発達により、日本の戦国大名から西洋の進んだ宗教や文化を導入したいという正式な要請があった。 | 2. 十字軍の遠征が成功したことで、キリスト教勢力がイスラム教勢力を圧倒し、アジア全域での布教が容易になっていた。 | 3. 宗教改革によって誕生したプロテスタントの諸国が、アジアにおける植民地支配を広めるために宣教師を派遣していた。 | 4. ヨーロッパで宗教改革が起こり、勢力を立て直そうとするカトリック教会が海外への布教を積極的に進めていた。 |
|---|---|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 家臣と土地の結びつきを弱めて反乱を防ぎ、 軍事・政治的な統制を強化するため	戦国大名にとって、有力な家臣が自分の領地で独自の勢力を持つことは、裏切りや反乱のリスクを伴いました。そこで、家臣を城下町に強制的に住まわせることで、家臣と領地の直接的なつながりを切り離し、大名の監視下に置きました。これにより、大名は軍事力を本拠地に集中させ、より強力な統治体制（大名領国制）を築くことが可能になりました。
問2	答え 4 下剋上の世において、家臣同士の私的な争いを 禁じ、領国内の秩序を安定させて支配力を 強めるため。	戦国時代、家臣同士の武力衝突は領国の弱体化につながるため、戦国大名は「喧嘩両成敗」などの規定を盛り込んだ分国法を定め、私闘を禁じました。自らの領地を「一国」として独立して統治しようとする大名の姿勢が、この法の制定に表れています。選択肢にある徳川氏による大名統制は江戸時代の武家諸法度、判例の整理は江戸中期の公事方御定書の説明です。
問3	答え 2 織田信長が、対立を深めていた15代将軍の足 利義昭を京都から追放した	織田信長は当初、足利義昭を擁立して京都に上洛しましたが、後に自らの政策を制限しようとする義昭と激しく対立しました。1573年、信長は義昭を京都から追放し、これにより200年以上続いた室町幕府は実質的に滅亡しました。鉄砲の伝来やキリスト教の布教開始はそれ以前の出来事であり、幕府滅亡の直接的な政治的要因は信長と将軍の対立にあります。
問4	答え 4 城下町	戦国大名は、それまで自分の領地に城を持っていた家臣たちを、大名の居住する本拠地に集まって住まわせる「集住（しゅうじゅう）」を進めました。これにより家臣の反乱を防いで統制を強めるとともに、商工業者を呼び寄せて物資の流通を盛んにしました。福井県の一乗谷（朝倉氏）や、山梨県の甲府（武田氏）などがその代表的な例です。
問5	答え 3 家臣同士の私的な争いを禁じる喧嘩両成敗な どの規定を設け、大名による裁判権を強化し た。	分国法は、戦国大名が家臣団を統制し、領国を安定させることを目的としていました。特に「喧嘩両成敗」の規定は、武士同士が私的な武力で行使していた解決を禁じ、大名の判断に従わせることで領国内の紛争を抑える重要な仕組みでした。
問6	答え 4 ドイツのルターが、ローマ教皇や教会の権威 を否定し宗教改革を開始していた。	鉄砲が伝来した1543年は16世紀にあたります。この時期、ドイツではルターによる宗教改革が進んでいました。他の選択肢について、イスラム教の創始は7世紀、モンゴル帝国の建国は13世紀初頭、アメリカ南北戦争は19世紀の出来事であり、いずれも鉄砲伝来の時期とは重なりません。
問7	答え 4 キリスト教の布教を伴い、鉄砲や火薬などの 軍事物資が輸入された。	ポルトガルとの南蛮貿易では、戦国大名たちが武力強化のために鉄砲やその原料となる硝石（火薬の原料）を強く求めました。宣教師たちは貿易の利益を背景に布教活動への協力を求め、多くの戦国大名が貿易の利潤を得るためにキリスト教の布教を許可しました。
問8	答え 4 バスコ・ダ・ガマが、香辛料などの交易を目 的として到達した。	大航海時代において、ポルトガルはイスラム勢力が支配する陸路を避け、直接アジアの香辛料を手に入れるために海路の開発を進めました。1498年、バスコ・ダ・ガマがアフリカ南端の喜望峯を越えてインドのカリカットに到達したことで、アジアとの直接的な海上交易ルートが確立されました。これにより、ヨーロッパの経済・社会に大きな変化がもたらされました。
問9	答え 3 尼子氏と毛利氏	石見銀山は現在の島根県大田市に位置し、戦国時代にはその莫大な利益を求めて周辺勢力が激しく争いました。当初は出雲国（現在の島根県東部）を拠点とした尼子氏が支配を強めていましたが、安芸国（現在の広島県）から勢力を伸ばした毛利氏がこれに挑み、長期にわたる抗争の末に毛利氏が支配権を確立しました。山梨県の武田氏や鹿児島県の島津氏は、活動拠点が異なるためこの地の直接的な支配権争いには関わっていません。
問10	答え 4 下剋上	室町幕府の権威が衰退した応仁の乱以降、身分に関わらず実力のある者が台頭する「下剋上」の風潮が強まりました。これにより、もともと守護大名の家臣であった守護代や、さらにその下の国人が、主君を追放して戦国大名へと成長していく動きが各地で加速しました。
問11	答え 2 領国を独自に統治するため、家臣同士の喧嘩 を両者とも処罰する規定などを盛り込んだ。	分国法には「喧嘩両成敗」の原則が多く取り入れられました。これは、家臣が勝手に武力で紛争を解決することを禁じ、大名が裁判権を握ることで領国内の平和を維持し、団結を強める狙いがありました。他の選択肢は、武家諸法度（江戸時代）、御成敗式目（鎌倉時代）、大日本帝国憲法などの説明です。
問12	答え 4 中央の京で使われていた標準的な枡とは容量 が異なり、地域独自の経済基準として運用さ れていた	甲州ますは、戦国時代に武田氏の領国などで使用された枡です。当時、中央では「京枡」が使われていましたが、地方の有力大名は自分の領内の経済や税（年貢）の徴収を管理するために、独自の度量衡を定めていました。甲州ますの容量が京の基準と異なっていたことは、当時の地域社会が独自の経済圏を持っていたことを象徴しています。足利義昭などの将軍が全国の基準を統一した事実はなく、むしろこうした地域ごとの差異が戦国時代の特徴の一つと言えます。
問13	答え 4 ヨーロッパで宗教改革が起こり、勢力を立て 直そうとするカトリック教会が海外への布教 を積極的に進めていた。	ルターやカルヴァンによる宗教改革によってカトリック教会の権威が揺らぐ中、カトリック側は勢力回復のためにアジアやアメリカ大陸への布教を強化した。この流れの中で、1534年に結成されたイエズス会のザビエルが日本へ派遣されることとなった。プロテスタントが本格的に日本に関わるのは、17世紀のオランダやイギリスの来航を待つことになる。